

北海之光

4月号 北海道教区報

ハレルヤ 新しい歌を
主に向かって歌え
詩編 149 編 1 節

発行所 北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12
日本聖公会北海道教区事務所
電話 011-717-8181
FAX 011-736-8377
E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp
http://www.nssk-hokkaido.jp
発行人 植松 誠

春をつげることば

聖マーガレット教会牧師
岩見沢聖十字教会管理牧師

司祭 ヨハネ 池田 亨

まったく個人的なことであるが、この四年、わたしの人生の節目、節目に、お世話になった方々が相次いで逝去された。復活の信仰を重んじていても、その喪失感にさいなまれていた。とりわけ、不義理を重ねてきたことへの悔いが残る。恩師、親しかった信仰の友、肉親への想いがよぎり涙ぐんでしまう。泣いてばかりいる牧師である。

四月二日、土曜日の午前九時半過ぎ。天気的好さにさそわれて、まだ肌寒かったが、散歩にでかけてみた。明日の説教の準備もできていないというのに。
春の陽が雪に反射するからだろうか、やたら眩しかった。それにしても美しい春の青空である。
この冬、あれだけ積もった

雪も急激に解け、まだ高く積まれた雪はあるものの、陽当たり良好の土地では地面が少し顔を見せていた。目をこらせば、すでに、チューリップが芽吹いているではないか。なんだか、わけもなく、とても嬉しくなった。
春、到来である。ここ札幌にも、春が来た。
まだ雪の残る公園のベンチに腰をおろし深呼吸してみた。目を閉じて、耳を澄ませば、聴きなれたスズメたちの歌声が聞こえてきた。樹の枝々のこすれる音も。
自然は好いな。実に好い。街の中、住宅地ではあるけれども自然は感じられる。
春の陽ざしは、あまねくすべてを照らし祝福するかのようだ。
きびしい自然、越冬したスズメたちは春を歌い、春の風

はその伴奏をする。
ポケットから小さな帳面を取り出し、めくってみた。そこには古今東西のキリスト者の言葉が記されている。いろんな書籍からあつめた自家製版「信頼へのことば・アンソロジー」である。
四世紀中頃から五世紀初頭にかけて生きたキリスト者の言葉。コンスタンチノープルの主教ヨアンネス・クリュノストモスこと金口(きんこう)の聖ヨハネ、その復活日の説教が目にとまった。(長文の引用、お許しを)

みなさん、主のよろこびに入ってください。はじめからの人も、後から来た人たちも、みんな報いを受けてください。豊かな人も貧しい人も、歌隊を組んで歌ってください。節制した人も、しなかつた人も、この日をよろこび祝ってください。断食した人も、しなかつた人も、今日は同じように祝ってください。祝宴の準備が整っていません。みなさん、来てくださ

い。肥えた子牛が用意されています。みんなが満たされるでしょう。喜び祝い、この信仰の宴に与ってください。あふれんばかりの神のいつくしみを受けてください。
誰も自分の貧しさを泣き悲しむことがありませんように。すべての人に神の国が開かれたのですから。誰一人、自分の過ちを嘆きませんように。墓から赦しが現れたのですから。もう、誰も死をおそれませんように。主の死がわたしたちを解放してください。たのです。(テゼ共同体編・打樋啓史訳『来てください沈むことのない光』サンパウロ・二〇〇二年発行より)

気分転換の散歩。このところ暗雲につもまれていたわたしのところに光がさした。
金口の聖ヨハネ師父のことば。すべての人を主のよろこびに招き入れる。そして、わたしのところに春をつげた。
(二〇二二・四・四記)



福音と私(二五七)

今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか

新札幌聖ニコラス教会

サラ 菊池 まつ子



—心の窓をひらく—

【私の好きな聖句】

何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにしなさい(新改訳)

(マタイによる福音書

第七章二節)

私のキリスト教との最初の出会いは、福島県いわき市の幼稚園の卒園記念にいただいた一冊の聖書からです。小さな字で書かれた小さな本。その時には読める訳がありません。でも、なぜか、これは大切な本だからずっと持つていようと思ったのでしよう。色々な物や思い出などが私の前に現れ通り過ぎ忘れられていく中で、六〇年以上たった今でも手元に置いてあります。開いて読むようになったのはまだまだ先のことでした

が。

こどもの頃、ずっと続けたことがありません。それは寝る前に布団の上で必ず正座して、毎日同じことばで「神さま今日一日をありがとうございまして。明日もよい一日になるようにお守りください。アーメン」と祈っていたのです。大人になりその習慣はいつしかなくなっていました。が、そんな日々の暮らしの中、周囲や家族との関わりで悩むことも多くなり、心が重くて重くて、この荷物を降ろせるところはないのかな、という思いで教会さがしが始まりました。

多くの教会へ足を運びました。訪れた教会はどこも心よく迎えてくださいました。三年ほど通い、洗礼を授かる寸

前でしたが、関わりの中で、ふとしたことでつまずきがあり、その教会へ行かれなくなりました。そんな自分に、しかたがないよそんなものだよ...と言いかせ日々を送る中、そういえば、あそこに教会があつたなど、時々車で通りかかる新札幌聖ニコラス教会を思ったのです。自宅から徒歩一五分。今まで訪ね歩いた教会の中で最も近い場所で、私を待っていてくれました。

訪れた日はみことばの礼拝の日でした。次の週「おまちしていました。ようこそ」と優しく迎えてくださった雨宮司祭の笑顔を思い出します。信徒の方々も自然に受け入れてくださり、とても居心地がよかったです。やっとたどり着いた気持ちでした。そして洗礼を授かり家族の中でただ一人のキリスト教徒となった私を、思いがけない方が祝福してくださいました。

当時、次男が働いていた介護施設に入居されていて、かつて牧師として働かれ、施設スタッフからヨハネさんと

呼ばれていた方です。ヨハネさんに次男が、母が洗礼を授かったのですよ、とお話をしました。すると、もう記憶も曖昧になられているのに、その時はとてもしつかり、はっきり「よかったです!!」と仰り、字を書くのも大変なのに封筒に御祝と書いて、ご自分のお財布にあつたすべてのお金を渡してくださいました。お金はこっそりお返ししましたが、入れてくださった封筒は、私を、洗礼を授かった日の気持ちに立ちかえらせてくれる大切な宝物です。私の教会生活はやっと一〇年がたちました。振り返ってみて、いい人になった訳でもなく、日々うまくいかないこと、後悔することなど多々あります。でも毎日曜日教会に来て礼拝をお捧げし、イエスさまに、私の心の荷物をお預けして、また新たに出かけて行けることは、恵みであり幸せなことです。

そして、長男が昨年、ニコラス教会の信徒に加えていただくことができました。主に感謝。

常置委員会報告

第五回三月一四日

《協議事項》

- 一、主教按手就任式の件
準備状況を確認した。
- 二、笹森田鶴新主教のランベス会議出席の件
・笹森新主教のランベス会議への出席を確認。派遣のための募金を一時停止していたが、不足分があるため募金を再開することとした。
- 三、植松主教、笹森主教被選者引越しの件
・段取りを確認した。
- 四、小樽聖公会落雪被害の件
・隣家よりの落雪により、礼拝堂が破損したが、その修理について協議した。
- 五、「出会いと交わりの日」の件。
・六月二六日(日)に開催を予定することとした。



植松主教とともに歩んだ二五年を

感謝する礼拝 報告

北見聖ヤコブ教会・網走聖ペテロ教会
紋別聖マリヤ教会

司祭 フランシスコ 飯野 正行

三月二一日午前一〇時三〇分より、主教座聖堂札幌キリスト教会にて「植松主教とともに歩んだ二五年を感謝する礼拝」が執り行われました。道内外から約一五〇名程が集まり、聖餐をいただき、感謝の時とともに過ごしました。礼拝後のセレモニーも用意

されていて、教区を代表して三名の方からの謝辞、アメイズング・グレイス独唱、そして植松主教と三千代さんからのお言葉をいただきました。小雪がちらつく中でしたが、終了後は皆、身も心もほくほくと暖かくなり、帰路につきました。

* * *

『貧しさに宿る力』

初めに、ウクライナと世界の平和を心から祈ります。すべての犠牲者のため、避難生活之余儀無くされている方々のため、プーチン氏とゼレンスキー氏のために祈ります。また、先日の大きな地震による犠牲者のため、困難な生活の中にある方々の安全・安心のために心から祈ります。また、コロナが早く落ちつきますように。また、この中に何



らかの事情により、愛と悲しみに疲れ果てた方がおられましたら、イエス様がその方に近づいて、深い慰めと癒しをお与えくださいますように。(黙祷)

主教様、二五年間有難うございました。教区主教・首座主教として、道内・全国・海外でその重責を果たされ、会議・諸礼拝の数は数え切れず、他教派・他宗教との交わりの中での聖務も大変な量であったと思われま。個人的にはミレニアムの修養会や日本聖

公会宣教一五〇周年記念の大
礼拝の感動は今も甦ります。

二五年の中には困難な事も
お有りになつたはず。聖公会
内で何かが起こった時には、
首座主教として批判の矢面に
立たされたのではと推察いた
します。あの東日本大震災の
痛みが起こった時には、どう
守って行くか、どう建て直し
て行くか、大変であったこと
と思われま。そして今のコ
ロナです。礼拝・活動・巡回
出来ない中での司牧でした。

道は自然の美しさは勿論です
が、広いので移動には時間が
かかります。北見へは四時間
半、網走へは五時間半。冬の
大荒れの日やアイスバンの
日は生きた心地がしません。
このような中を二五年間、ご
巡回くださったのです。

ところで、主教様の大変さ
を語る事は、私にとって感謝
を語る事で、それは主教巡回
礼拝を抜きにしては語る事は
出来ません。この広い北海道
二五年間、よくぞ巡回くだ
さいました。年二回の巡回で、
三千代さんが奏楽をしてくだ
さいました。主教様がベスト
リーで式服を着ていたり、教
会の方々にご挨拶されている
時に、三千代さんがパストラ
ル・スタッフを組み立てて
いる姿を思い出します。北海

主教様を思う時、私は「貧
しさ」を大切にされたイエス
様を見る思いが致します。M
JMでニューヨークに行く時
受話器の向こうで祈ってくだ
さり、アッシジにも行かせて
くださり、世界平和会議にも
ご一緒し、聖金曜日礼拝で十
字架上の七聖語について語ら





せていただいた時には真剣な顔でお聴きくださり、入院時にはご聖体を拝領させてくださり、信徒の方を送迎してくださり、蜂を払いながら葡萄の収穫をご一緒してくださいました。

山上の説教は「貧しさ」から始まります。イエス様は私たちの中の貧しさから、私たちのための働きを始められる。キリスト教の原型には旅があります。旅には「疲れ」がつきもの。疲れは限界の体験。イエス様はその私たちの中の最も疲れている部分に意味を与えるお方。その部分をさして貧しさと言うのなら、この私の中にも貧しさはある。でもこの「貧しさ」は決して否定的なものではない。「神の国はあなたがたのもの」というのですから。私たちの中にある「貧しさ」にこそ、この世を浄める力は宿るので、人の目には低きわざが、神の御前には高きわざであることもあるのです。

私たちは、主教被選者マリ・ア・グレイス笹森田鶴師を全力でお守り致します。そしてお仕え致します。共に宣教の輪に加えさせていただきます。

これからの植松主教ご夫妻のためにお祈りさせていただきますので、この北海道のためにも祈り続けていただきたいと思います。

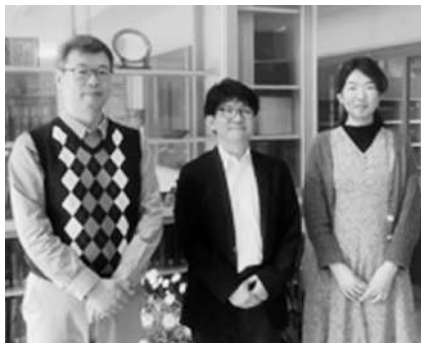
逝去された方がいつも座っておられた座席を見つめ、写真撮っておられた主教様。心あたたかい主教様。チャンセル上で共に涙したことを忘れません。主教様。二五年間本当に有難うございました。神様の祝福がありますように。

教区事務所職員紹介

いつも、教区事務所・職員のためにお祈りくださりありがとうございます。

この四月から、副主事として教区事務所の奉仕に参与することとなりました出町勇人と申します(写真中央)。所属は札幌聖ミカエル教会で、三月までは札幌市役所で二七年間行政の仕事に携わっていました。

事務所の業務は、教区・教会会計の管理や教区会館の管理運営、各種会議の開催などですが、幼稚園・保育園の運営法人の事務主事も兼務することとなり、重責に身が引き締まる思いです。



教区事務所主事の永谷司祭、二〇二〇年から在職している書記の高橋愛さん(小樽聖公会)と力を合わせ、主の導きのもとで務めを果たしていきたいと思えます。今後ともお支えくださいますようお願いいたします。

最後に、私の前任である金内淳子さん(札幌キリスト教会)には、三年にわたりご奉仕くださいました。あらためて感謝申し上げます。

最後に、私の前任である金内淳子さん(札幌キリスト教会)には、三年にわたりご奉仕くださいました。あらためて感謝申し上げます。

〔訂正とお詫び〕

三月号の札幌キリスト教会教会だよりにおいて、挿画を描いてくださった方のお名前が違っておりました。訂正するとともにお詫びいたします。

- × 竹林 千明
- 竹花 千明

紋別聖マリヤ教会の教会だより中にも、記載の誤りがありました。あわせて訂正・お詫びいたします。

- × 感謝の恵み
- 神様の恵み

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

五月二一日(水)

午前一〇時三〇分

於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司祭 岩田 慶次郎

伝道師 山田 致人

一九〇二年五月九日

伝道師 伊勢田 清美

一九三七年五月九日

伝道師 ペネロピー アン

フイツシャール

一九八九年五月一日

司祭 佐藤 信康

二〇〇九年五月一日

伝道師 エデイス ルイーザ

ベアトリス ノートン

一九五二年五月一日

司祭 與賀田 千秋

一九九七年五月二八日

司祭 伊東 松太郎

一九三七年五月三二日





「二〇二三年日本聖公会
宣教協議会について」

主の平和がありますように。

日本聖公会宣教協議会実行委員会です。今後、各教区の教区報の紙面を定期的にお借りいたしましたして、宣教協議会のテーマや具体的なプログラムについて、また一九九五年と二〇二二年に開催された宣教協議会で協議されて分かち合われてきたことについてお伝えさせて頂きたいと思えます。

主イエス様は「私はぶどうの木、あなたがたはその枝である。」(ヨハネ一五・五)とされました。「ぶどうの木」であるイエス様とつながり、そこから伸びていく「ぶどうの枝」である日本聖公会に連なる皆様お一人お一人と

た。

話し合いの中で、たくさんの課題と恵みが見えてきました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、実行委員会は、対面での集まりを一度ももつことができていません。そのような状況下で、また二〇二二年の新型コロナウイルス感染症状況が見通せない中、大勢が対面で集まる事が可能かどうかという、プログラムを作る上での課題がありました。そして何より、皆様との対話の場の設定が必要でした。宣教協議会の準備は、各教会や教区、諸施設も含め、日本聖公会に連なる皆様お一人お一人との対話の中で、深められ、多くの方々と一緒に、進められていくことが必要だと考え、実行委員会は一年間の開催延期を提案し、主教会と常議員会で承認を頂きました。

これまでの経緯

二〇二〇年一〇月の日本聖公会第六五(定期)総会において、二〇二二年一二月に清里で宣教協議会が開催される事が決議されました。この決議をもとに構成された実行委員会は、オンラインミーティングを重ねて、準備を進めています。また、二〇二一年九月九日(木)・一〇日(金)・一〇月七日(木)・八日(金)の四日間に行われ、各教区の宣教担当者とおんらいにて意見交換を行いました。

施設・管区の委員会の皆様には、アンケートにご協力頂きました。それは二〇二二年の宣教協議会からの「二〇二〇年の実行」や、様々なご意見をお寄せいただくものでした。アンケートの回答は、実行委員会にて常に参考にさせて頂きたいと思えます。尚、アンケートの回答結果については「二〇二三年日本聖公会宣教協議会プログ」にて公開されていますのでご覧下さい。

「各教区報や、ブログ、Facebookなどで情報を発信していきます。」

大切にしていききたいこと。これからの予定
宣教協議会の実施にあたっては、以下のことを大切にしていきたいと思えます。また、今後の予定についてもお知らせします。

〇「ぶどうの枝分科会」として、二か月に一度、様々なテーマの分科会(管区の各委員会代表者、青年委員やU26運営委員、各教区青年担当者、関連施設チャプレンなど)を行います。

〇「ぶどうの枝協議会」として、二〇二二年八月二二日(月)～二三日(火)に、各教区宣教担当者や管区諸委員と実行委員会が対面で集まり、今後の道筋を分かち合う予定です。

〇「ぶどうの枝だより」〇「ぶどうの枝だより」

〇皆様と意思を分かち合い、共に祈り、つながるプロセスを大切にします。宣教協議会は一年半先のことではなく、すでに今、この瞬間に始まっていると、考えていただければと思います。

〇「ぶどうの枝だより」

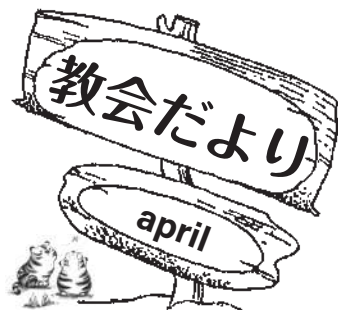
〇「ぶどうの枝だより」

〇「ぶどうの枝だより」

〇「ぶどうの枝だより」

〇「ぶどうの枝だより」





▽網走聖ヘテロ教会

春は家庭でも職場でも異動、別れ、出会い、出発の季節、時を感じる中、一日一日を大切に生活したいものです。

一七日、大斎を覚え今年は教会にて集会を持ちました。今困難の中にある人々のために祈り、平和について皆さんで語り合い、恵みある時間でした。

二一日主感謝礼拝には司祭、和田さんが出席されました。主教様、奥様二五年間ありがとうございました。

ホームでは二名の子が親元へ家庭復帰し、新しく一名が加わりました。ホーム一〇年目に入り、一五人目の仲間です。

▽旭川聖マルコ教会

三月六日の礼拝は、世界祈禱日礼拝と当教会の逝去者記

念聖餐式を兼ねて行われました。但し、今月もコロナ対応短縮聖餐式が続いています。

一二日は、保育園の卒園式に教会を代表して山崎典美さんの挨拶がありました。

一三日は、永谷管理牧師による聖餐式の後に、六月から旭川に赴任される同牧師に挨拶を頂きました。

二四日は、婦人会による保育園卒園児のクッキングが行われ、マスクとエプロン姿の子どもたちと、マドレーヌ作りの楽しい時間を過ごしました。

一日も早くコロナと世界の戦争が終息しますように！

▽岩見沢聖十字教会

三月は別れの季節。植松主感謝礼拝の動画を視聴。涙する信徒。ご夫妻様、長い間、ありがとうございました。

幼稚園は二〇日が卒園式。一家族一名の制約された中で卒園式。今年度もコロナ禍で思う存分の保育は出来ませんでした。子ども達はいつも元気。頑張れ聖十字っ子！

ロシアによるウクライナ侵攻に私達も胸を痛める。毎週の礼拝で祭壇に、日本とウク

ライナ国旗を置き、祈りを捧げる。私達の思いが伝わりますように。そしてロシアの指導者が悔い改めますように。

▽釧路聖パウロ教会

今年の三月は当教会にとつて試練の連続でした。その一つはコロナです。二月から釧路地方の感染者は増え続け、三月の初旬にはピークに。中旬には減少に転じましたが高止まりの状況が続きます。

もう一つは大雪、暴風雪の影響が礼拝への参加を阻んだことです。三月六日の大斎節第一主日、三月二〇日の大斎節第三主日の暴風雪は、信徒の出足を阻み、極少人数での礼拝を余儀なくされました。

ただ、去年から新しい礼拝スタイルであるリモート礼拝が、その機能を遺憾なく発揮し、数人の信徒がリモートで参加、画期的なことでした。

試験の中、嬉しいことも沢山。大斎節第二主日には小学生が三人も出席。礼拝堂が萌えたたちました。また、闘病中だった津田勉兄が退院、元気を取り戻されました。

また前頌栄保育園長の前田博美兄が四月一日付で紋別から頌栄保育園に復帰決定など、明るい春が近づいてきています。

▽北見聖ヤコブ教会

ただ、木幡八重子姉のご主人、木幡雅敏兄が一〇日に逝去されました。神よ見守りを。

積雪量はとても少なかったのですが、風の強い日が多かったため、あちこちの吹き溜まりが意外にあった北見です。

三月六日、聖餐式の初めに灰の十字のしるしをいただき、委員会を終え皆様帰られてから、司祭は二名の方の私宅聖餐をいたしました。YMC Aでは三度もお礼拝があり感謝。主教様とともに歩んだ二五年を感謝する礼拝では司祭が説教奉仕をいたしました。水回りに不凍液を流し込む必要も無くなり、水落としの必要も無くなりそうです。露のとうも春を告げていますよ。

▽小樽聖公会
二月二十七日(日)朝、礼拝堂の西側の壁に大きな損傷があることに気づきました。ど

うやら前日の夜に、空き家になって隣家の屋根からの大きな落雪が勢いよく外壁を直撃した模様で、一箇所の外側のガラスが割れ、壁が内側に「く」の字に折れていました。雪の侵入や物品への損害、何より人的被害がなかったことは幸いです。現在は建設会社による建物内部からの応急処置を済ませ修復工事の開始を待っている状況で、礼拝は集会所で行っています。安全が守られ早く元通りになることを願っています。

▽新冠聖フランシス教会

三月一三日(大斎節第二主日)、植松主教さまが急遽お出でくださることとなりました。それと言いますのも、去る一月三〇日に最後のご巡回を予定しておりましたが、札幌でのコロナ感染者の急増を受けて中止となっております。「どうぞ、ご無理なさいませんように」と申し上げておりましたが、「わたくしの胸のつかえが下らないのです」と仰言つてのことでありました。まことに、教会員一同も同じ思いでありました。主教さま・三千代奥さま、ど

うぞお元気でー御機嫌よう!

い間の教会でのご奉仕に感謝、霊の平安を祈る。二一日

者さんの声を多く収録、教会のいまと、主にある希望が綴られており、すでに各教会にお送りしています。二一日、

の順に、毎礼拝後に短い時間黙想と学びの時を持つ。教会に集う者たちの祈りについて、当たり前のように繰り返してきたことの一つ一つに注目し直す機会となった。雪が溶けて駐車場の地面が見えてきた。今年の大雪の影響か脆くなっていたマンホールのコンクリートが崩れてしまい、

るよう主の声に耳を澄まし、身の丈とあと少し、そして精一杯の宣教の歩みを一歩ずつ確かにしていきたいと願っています。

▽帯広聖公会

コロナ第六波の影響により一月一六日から礼拝自粛、三月二七日に再開、久々に聖餐の恵に与り何とも言えぬ喜びに満たされました。しかし帯広・十勝は依然として発症者が高止まりの状況、緩みなく防疫に務めましょう。寺本先生軽い脳梗塞を患われ入院加療中、どうぞご加禱下さい。

「植松主教と共に歩んだ二五年を感謝する礼拝」全道から一五〇名が集う。二七日、植松主教様の教区主教在任中最後の司式・説教による聖餐式。一四〇名超の出席。主教様と三千代さんへの感謝のセレモニーでは、二五年前の主教就任時の思い出やご家族からのメッセージ、GFSや聖歌隊の心のこもった歌、主教様と三千代さんからのお言葉：最後に集合写真を撮影しました。

三月六日(日)、大斎節第一主日。聖餐式中、灰の十字を額に印す式を行う。礼拝後、その灰の十字を、ウエット・ティッシュで拭うことなく、そのまま帰る人あり。

現在、毎週金曜日の夕の礼拝を「平和のために祈る夕べ」と題して特に世界の紛争や困難に目を向けて祈りをお捧げしている。世界の平和のため小さな祈りが聞き届けられま

から希望を胸に園児達が元気に巣立っていきましました。教会では今後のためにと高性能空気清浄機を導入。ウイリスに対して安心感が芽生えました。植松主教への感謝礼拝は苦小牧から八名参加。オンラインでの参加も。こうして礼拝に参加出来たこと本当に感謝です。

▽札内聖公会(伝道所)

ご逝去の高橋猷一さん、旭川医大に献体後、一年ぶりにご遺骨がご自宅へ。改めて魂の平安をお祈りします。五月に記念式と納骨が行われる予定。三月二七日札幌聖ミカエル教会、厚母さんご一家来訪歓迎。

午後一時からは、上平未奈さんによる素敵なお祈りです。二名が出席してくれて嬉しかったです。工事中カバーで覆われていた新園舎が姿を現し、教会とマッチした落ち着いたデザインに、感嘆の声をあげました。まだ仮の使用ですが、月末には新園舎で保育を開始しました。宣教七〇周年記念誌が発行されました。現在の信

ご逝去。代禱において憶えたばかりゆえ、驚き、涙にくれる。二八・二九日と、コロナ禍であったが、教会員に呼びかけ葬儀を行う。日曜学校・聖歌隊・婦人会・教会委員として奉仕されたお方。主の平安を祈ると共に、ご家族に主よりの慰めを祈る。

冬が終わりを迎え、少しずつ春が近づいて来ているのを実感する頃となりました。教会は昨年の教区会決議から伝道所として新しい歩みが始められました。信徒一名の小さな伝道所ですが、道北分区の各教会と信徒の皆さま、また教区の多くの方の支えと祈りに感謝いたします。「北の果てなる」聖公会の枝が、これからも元気に主を証し続けられ

大斎節の映画鑑賞会「祈りのちから(War Room)」クッスと笑ったり、ぐっと心に打つものがあったり、日々の祈りの大切さとまた向き合う機会になりました。

▽函館聖ヨハネ教会

二月二七日、ルツ小島育子さんご逝去。三月一八日、マリア須賀みほさんご逝去。長

▽新札幌聖ニコラス教会
今年の大斎節は、祈禱書で見慣れた聖餐式について、「準備」「行い」「言葉」「思い」

▽函館聖ヨハネ教会
三月四日、世界祈禱日、今年も市内の皆さんとは一緒に

▽函館聖ヨハネ教会
今年も市内の皆さんとは一緒に

今年も市内の皆さんとは一緒に

わせて、イングランドの姉妹を思つて祈りました。

二七日、司祭不在のためみことばの礼拝。信徒による証、先月は音楽とキリスト教、今月は美術とキリスト教について学びました。パワーポイントを使って絵画で聖書を読むという試み、マリアの気持ちで十字架の道行きの絵を鑑賞するという試み、時間を忘れて見入ってしまった。この日は朝から、皆で思い出しながら棕櫚の十字架を作りました。なぜか毎年、この時間は諸先輩達の話題になり、懐かしい方達の笑顔を思い出しながら、久しぶりの会話を楽しみました。

▽平取聖公会

一月三〇日に予定されていた植松誠主教最後の巡回が札幌地区と日高地区のコロナウイルス感染者の増加により中止されていましたが、三月一三日に平取と新冠の礼拝に來られることとなり、思わぬことに信徒一同驚きと感謝でいっぱいでした。

説教の中で主教の母方の祖母で伝道師の兵頭襄さんが平取町の隣の旧穂別町、似湾

川でバチラー宣教師から洗礼を受けたが、その地で伝道していたのは後に新冠町姉妹の御料牧場から平取町上貫気別へアイヌが強制移住させられた地の小学校校長になった渡辺誠伝道師であった、等のゆかりを話された。

植松誠主教の二五年間のお導きとそのくしきゆかりが我々の胸に残り、感謝の気持ちでお送りし、お別れしました。新天地での三千代夫人とのお活躍をお祈りいたします。

▽紋別聖マリア教会

三月六日、植松主教司式による聖餐式。植松主教は当教会では最後の礼拝で、後任の越山司祭と泉夫人が来紋され共に祈りを捧げました。

一七日、紋別幼稚園卒園式でチャプレンとして、植松主教が出席されました。

二〇二〇年四月より、紋別聖マリア教会牧師・紋別幼稚園チャプレンとして奉仕いただいた植松主教、紋別幼稚園園長として奉仕いただいた前田園長に感謝いたします。越山司祭・園長、四月からよろしくお願いいたします。

▽有珠聖公会

二月二七日、主日聖餐式。

JR北海道の取材チーム來会。車内誌に「バチラー八重子、愛を歌う」として特集記事掲載のため、礼拝や、バチラー夫妻記念館の様子取材。四月に特急列車でご旅行の方は、是非手に取ってください。同日、堅信受領者総会が開かれ、リードオルガンの改修に向けて具体的な話がなされました。今冬は、有珠にしては珍しく大雪でしたが、春の訪れは遅れる事なく、信徒家庭では農作業が順調に進んでいます。四月からは、土曜日の開館事業も始まりま

す。

▽留萌キリスト教会

春の陽光を感じますが三寒四温で薄着は禁物です。雪融けが進み、除雪を委託した業者に感謝しつつ、アスファルトの破損部を報告しました。

植松主教と主に歩んだ二五年感謝の礼拝には、最後の巡回礼拝に出席できなかった小林さんと、同じく深川の高木さんと共に車に乗り合わせて出席しました。新型コロナウイルスの対策を講じる中で交わり

の機会が減ってしまいました。東の間の教会間交流になりました。最後に改めまして、植松主教様、三千代さん、二五年間ありがとうございました。

▽今金インマヌエル教会

三月一三日と二二日に礼拝を守る。藤井先生ご夫妻のお話などもあり、ウクライナの小さく貧しき隣国、モルドバに支援をしては、との話になり、色々な思いもあります。四月のヨハネ教会の動きを眺めつつ進めてゆきたいということになりました(有志という形をとりたいと思っています)。

三月二二日に植松主教の二五年間に感謝する礼拝に行かせていただきました。その日は大変寒い日でしたが、主様とお話を聞かせてもらい、大変暖かくほっこりした時を過ごさせていただきました。

▽室蘭聖マタイ教会

三月一三日、松井司祭より聖餐を受ける。その後聖書輪読、「マタイによる福音書」終える。

二二日、「植松主教とともに

に歩んだ二五年を感謝する礼拝」に藤井兄が出席される。

三月八日、四〇年の長い間室蘭にいらした須賀みほさん(現札幌キリスト)が天に召されました。魂の平安を祈ります。

大斎も半ばになった二七日、札幌の大町司祭の司式で聖餐を受ける。

三〇日、松井司祭來会され、聖書輪読。「ヨブ記」に入る。今回は「ヨブ記」を読み始めるに当たり」を司祭より学ぶ。感謝。

▽深川聖三一教会

二月七日、コロナ禍により書面による信徒総会、二月中礼拝自粛す。九日、保育園職員会議。三月二日、卒園礼拝、神の子の証を授与。六日、灰の儀式を移動主日とす。六日、委員会。一二日、深川あけぼの保育園第四九回卒園式、七名。保護者のみ出席。男子はネクタイ、女子はかわいいはかま姿、父母の涙々。おめでとうございます。二〇日、教会報発送作業。二二日、札幌での植松主教様感謝送別礼拝に二名出席。